

平成 30 年 6 月 8 日現在

機関番号：14401

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2014～2017

課題番号：26370133

研究課題名(和文) 初期近代植民地美術における「文化境界上の現象」：事象研究と方法論の探求

研究課題名(英文) "Phenomena on borders" in the Early Modern Colonial Art. Theory and Case Studies

研究代表者

岡田 裕成 (Okada, Hiroshige)

大阪大学・文学研究科・教授

研究者番号：00243741

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,800,000円

研究成果の概要(和文)：植民地のような文化の境界領域においては、支配の徹底こそ、従属する側の人々が支配文化についてのリテラシーを獲得する回路となること、そして、支配文化への接近によって、従属する先住民の支配層は自らの社会的な生存を図ったことを、スペイン人による征服後のメキシコやアンデスにおける美術作品の具体的な検討を通して明らかにした。また、こうした美術の「境界上の現象」を、異なる起源をもつ素材や技法、様式、図像の戦略的な「節合」として分析する理論的な枠組みを提示した。

研究成果の概要(英文)：By examining artworks from colonial Mexico and Andes, this research project has demonstrated the facts that it was the completion of the dominance that allowed the subordinates in the colonies to obtain the access to the dominant culture, and that, therefore, the elite in the colonial indigenous society could retain the possibility to survive socially. This research has also proposed a theoretical framework to describe such "phenomena on borders" in arts as a process of the strategic "articulation" of various elements of material, technique, style, and iconography that had culturally diverse origin.

研究分野：美術史学

キーワード：植民地美術 ラテンアメリカ スペイン

1. 研究開始当初の背景

申請者は平成23年度より3年間にわたり、「大航海時代後の美術における他者像の類型・系譜とその象徴的機能」との課題のもと、科学研究費基盤研究(C)に基づく研究をおこなった。

「他者」の表象をめぐる問題は、いわゆるオリエンタリズム研究などの文脈で、美術史学の分野においても広く議論されてきた。申請者はそうした先行研究を踏まえつつ、ヨーロッパの世界的ヘゲモニー確立の最初の舞台となった新大陸植民地において、「他者」たる先住民が、美術作品のなかでどう表象され、図像化されていったのかを詳しく研究してきた(岡田裕成: "Inverted Exoticism? Monkeys, Parrots, and Mermaids in Andean Colonial Art." In *Exh.Cat.: The Virgin, Saints, and Angels: Latin American Paintings 1600-1825 from the Thoma Collection*. Cantor Center for Visual Arts, Stanford University, 2006; 齋藤晃との共著書『南米キリスト教美術とコロニアリズム』名古屋大学出版会, 2007 [特に第2章])。本申請の前提となる平成23年度からの科研プロジェクトでは、申請者自身のそうした研究をもとに、スペイン人征服者や征服後の先住民首長の紋章図像など、従来の美術史研究ではあまり取り上げられることのなかった図像資料をも幅広く調査し、「新世界表象」がもたらした社会的・象徴的な機能を解明しようとした。

その一連の研究において申請者は、異文化接触領域における「他者」像が、けっして単純に征服者/支配者の側の一方的な構築物ではなかったことを詳しく跡づけた。それはむしろ、植民地体制と向き合い、外来の表象の技術としての「美術」を積極的に学び取った、首長・貴族層を中心とするエリート先住民が、「本国」スペインに向けておこなった「自己」イメージの操作と、軌を一にするものであった。

こうした成果をもとに、申請者は、研究の次の段階として、1)「新世界」をめぐる他者表象について、その代表的事例に絞ったより精密な個別的な研究を進めるとともに、2)時代・地域を異にする類例に取り組む研究者との共同研究を通して、異文化接触領域の美術における「境界上の現象」の特質とその研究の方法論を探求する、という本研究計画の構想に至った。

2. 研究の目的

大航海時代以降、今日に至る「グローバル化」の最初の段階に踏み出した世界において、ヨーロッパと非ヨーロッパの接触は、その文化の境界上に、特異な美術の領域を生みだした。とりわけメキシコやアンデス地域を中心とする、ラテンアメリカのスペイン植民地には、

そうした異文化の接触と交渉の場が、多様なかたちで出現する。本研究は、この異文化接触領域における「境界上の美術」に特有の現象を、個別的な事例の詳細な研究を通して明らかにする。同時に、比較可能な事例に取り組む研究者との共同研究を通して、「文化境界上の美術」というべきものの特性を明確にし、その研究に固有の方法論を探求する。

3. 研究の方法

本研究計画は、1)新大陸植民地で制作された、征服以前の歴史、あるいは「先住民的なもの」に関わる美術作品について、そのパトロナイジや受容の場を、先住民君主像、首長(カシケ)像、先住民首長の紋章などの図像資料、およびそれに関する文書史料から明らかにする事例研究、そして、2)その事例研究を幅広い時代・地域の対象例と比較検討し、「境界上の現象」研究の方法論を探る、理論的研究の両面からなる。第1の課題に関しては、これまでに長い調査歴のあるスペイン、メキシコ、ペルー、ボリビアの文書館、図書館、美術館などにおいて、関連する史資料の収集分析を進める。第2の課題に関しては、「境界上の現象」の関わりうる事例に取り組む海外共同研究者との共同研究を通して実施する。テーマと関係深い主要な海外共同研究者は日本での研究集会に招聘し、分担する課題についての研究報告を求める。

4. 研究成果

上記の課題のうち事例研究については、論文「美術の移動と境界上の現象」、『民族藝術』(33, 2017, 25-31) および学会発表 "'Lo indígena' en el arte: Expresión inconsciente o imagen manipulada?" (VIII Encuentro Internacional del Barroco, 2015年6月9日、Universidad Católica San Pablo, Arequipa.)において、主な成果を公にした。

前者の論文においては、メキシコの先住民首長層が、羽根モザイクという征服以前のアステカ由来の素材・造形装飾技法と、ヨーロッパからもたらされたキリスト教図像を組み合わせ、ヨーロッパ側のエキゾティシズムも意識した上で、「キリスト教化した他者」としての権利主張を試みていく過程を解明した。

その過程とは、征服と植民地支配の徹底が、逆に、従属する側に置かれた人々が支配文化についてのリテラシーを獲得する契機となる、逆説的な現象である。そのような異なる文化間の交渉の場において、交渉の参加者、とりわけ従属側に置かれた人々は、彼ら自身の存在を、いかにして支配者の側に提示し、自らの社会的生存を図るのかという切実な課題と取り組んだ。支配者の文化に属する「美術」は、その交渉の重要な媒体であり、異なる起源をもつ素材や技法、様式、図像は、

その起源の違いを明確に意識した上で、戦略的に「節合」された。上記の論考はその過程を、作品および関連史料を通して具体的に明らかにしたものである。

後者の学会発表では、同様の問題意識を征服後アンデスの先住民社会について展開した。ここでは、1610年のクスコで開催されたイグナティウス・デ・ロヨラ列福祝日の記録文書を新たに取り上げ、この祝祭においてインカ系の先住民首長たちが行った行列行進と、そこに引き出された聖像山車の装飾や首長たち自身の扮装を詳しく紹介した。この問題は、従来の研究で詳しく論じられることのなかったものである。

その上で、彼ら先住民首長が、インカ装束を纏ったキリスト像を制作した一方、古代ローマ風の武具を自ら身につけて行進したことの意味を詳しく明らかにした。これは、上のメキシコの場合と同様、「キリスト教化した他者」としての権利主張を試みたものである。発表ではさらに、クスコの貴族たちが古代ローマに関わる知識を、マドリッド宮廷をはじめとする様々な場所での外交的交渉などを通して、獲得していったことも明らかにした。なお、この発表は2017年、上記学会の報告論文集の一編として刊行された。

こうした事例研究と並行して、その問題意識の拠って立つ基盤をなす理論的枠組みについても研究を進めた。

これについては、本科研プロジェクトの初年度に、アジア近代美術の専門家、後小路雅弘氏、東欧ポピュラー音楽の研究者、伊東信宏氏、明治の歌舞伎と西洋の接触を研究する矢内賢二氏を招いて国立民族学博物館で開催した公開シンポジウム「接触領域の芸術」、国際シンポジウム「日本における「美術」概念の再構築」で発表した論考「「アメリカの再発見」？ 草創期ラテンアメリカ美術史から問う植民地美術論の現在」、米国ヴァンダービルト大学でのシンポジウム "Rethinking Forced Resettlement in Colonial Andes" での発表などを中心に、その議論を進めるとともに、成果を公にできた。

その論の中核をなすのは、上の事例研究にも示した、支配の徹底にこそ、その支配を相対化する契機も存在する、というアイロニーの諸相である。すなわち文化的な他者の支配を目指すならば、支配する側は自らの文化を従属する人々に教え、その核心部へのアクセスの回路を開く必要が生じる。従属する他者の側の、とりわけエリート層に属する人々はその交渉の場において、支配文化に同化しつつ、その「ごこちない模倣」を通して支配文化そのものを変質させ、かつ自己の居場所を構築することになる。その「ごこちない模倣」の過程に生じるのが、異なる起源をもつ文化的な要素の「節合」である。

こうした問題の諸相は、上のシンポジウムのタイトルでもある「接触領域の芸術」につ

いての学として体系化されることを本プロジェクトにおいて示した。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計5件)

岡田裕成 「せめぎ合うヴィジョン スペイン植民地世界展」、『西洋美術館』18、2014、210-217、査読有

岡田裕成 「接触領域の芸術 美術・音楽・芸能」、『民族芸術』31、2015、45-46、査読有

岡田裕成 「美術の移動と境界上の現象」、『民族芸術』33、2017、25-31、査読有

岡田裕成 「海を渡ったキリスト教美術」、『民族芸術』33、2017、9-24、査読あり

岡田裕成 "'Lo indígena' en el arte: Expresión inconsciente o imagen manipulada?" *Mestzaje en diálogo, VIII Encuentro Internacional del Barroco*, 2017, 29-38. 査読あり

[学会発表](計5件)

岡田裕成 「接触領域の芸術」民族芸術学会公開シンポジウム「接触領域の芸術」、2014年9月21日 国立民族学博物館

岡田裕成 「聖母、征服者、先住民首長 アンデスにおける聖像受容の政治学」シンポジウム「宗教の衝突、和解、融合」、2014年9月27日 早稲田大学ヨーロッパ中世・ルネサンス研究所

岡田裕成 「「アメリカの再発見」？ 草創期ラテンアメリカ美術史から問う植民地美術論の現在」、国際シンポジウム「日本における「美術」概念の再構築」、2014年11月8日、福岡アジア美術館

岡田裕成 "'Lo indígena' en el arte: Expresión inconsciente o imagen manipulada?" *VIII Encuentro Internacional del Barroco*, 2015年6月9日、Universidad Católica San Pablo, Arequipa.

岡田裕成 "Restructuring Visions: Art and the Indigenous Communities after the Toledo Reforms", *Symposium: Rethinking Forced Resettlement in Colonial Andes*, 2015年11月7日、Vanderbilt University, Nashville.

〔図書〕(計3件)

岡田裕成 『ラテンアメリカ 越境する美術』、筑摩書房、2014年、350頁

岡田裕成、Jonathan Brown, M. L. Alcalá 他4名 "Pintura en Hispanoamérica, 1550-1820", El Viso, 2014, 477頁

岡田裕成、Jonathan Brown, M. L. Alcalá 他4名 "Painting in Latin America, From Conquest to Independence", Yale University Press, 2015, 477頁

〔産業財産権〕

出願状況(計0件)

取得状況(計0件)

〔その他〕

ホームページ等

岡田裕成ウェブサイト

<http://www.let.osaka-u.ac.jp/~okada/ahs/>

6. 研究組織

(1)研究代表者

岡田裕成 (OKADA, Hiroshige)

大阪大学・文学研究科・教授

研究者番号：00243741